

INSPIRE No.32



「毎日、子育てを頑張っているお父さんお母さんの為の秋のリトリート」
リトリートとは「その場から離れる」という意味があります。よくアメリカでは会社のリトリートとして、リゾートなどに行き、非日常の場において、研修、またはリフレッシュをします。私たちのリトリートはEQをエクセサイズする日です。このまま2018年に向けて歩み続けるのではなく、まず、立ち止まり、そして振り返る機会です。子供たちに人気のあるEQを育むアクティビティーに楽しくチャレンジしてみませんか。リトリートを通して、日頃の子育てを振り返り、お祝いし、2017年をFinish Strongしませんか？

日時：10月1日（日）

時間：13:00 - 16:00

場所：スクエア荏原大会議室

住所：東京都品川区荏原4-5-28（武蔵小山駅徒歩10分）

対象者：保護者

人数：15名(定員に達し次第、申し込みを終了させていただきます)

参加費用：3,000円（第4回ギフトッド教育カンファレンス2017にご参加された方は50%オフです）

持ち物：カフェマグ

服装：動きやすく汚れても良い服装でお越しくださいませ

申し込み: office@jagifted.org

託児について：申し訳ございませんが託児はありません。

是非ご参加くださいませ！

感覚愚鈍

「感覚が愚かで鈍い！」

ギフティッドの持つ大きな特徴として、ギフママ友との貴重なあるある体験話により世紀の大発見をしました！（←大袈裟ではない）感覚鈍？？？ギフティッドといえば、過度激動の感覚過敏でしょ！な～に言ってるの、このひとアホじゃない？と思ったお母様、あなたのお子様はまだ体験していないため、本当にラッキーなだけなのです。

さて、ギフティッドはどのような感覚が愚かで鈍いのでしょうか？それはなんと、

「強烈な痛みや苦しみを伴う感覚が愚かで鈍いのです！」

注射やカスリ傷等、たいしたことのない日常によくある痛みには普通に痛がります。また、感覚過敏があるため、身体に直接触れる感覚には超過敏で、ズボンのベルト締め付け・固い素材・洋服の背中のタグ・帽子のゴム・マフラー・ネックレス等は異常に嫌がります。なのに、なぜここまで我慢できるの？普通なら大人が救急車呼ぶでしょ！の痛みには愚かで鈍いのです。ほんの一例として挙げますが、

※鉄棒でカスリ傷、たいして痛がる様子なく教師は絆創膏処置➡指の腱切断

※咳風邪、長引くがたいして苦しむ様子なく普通に通学1カ月間➡マイコプラズマ肺炎

※車にはねられ打ち身、たいして痛がる様子なく加害者は親に迎えを要請し1時間待機

➡尾骶骨ヒビ

※駅階段から落ち打撲、たいして痛がる様子なく駅員は親に迎えを要請し2時間待機

➡足骨折

※ホームと電車の隙間に落ち打撲、たいして痛がる様子なく駅員は放置、そのまま登下校し養護教員の処置は冷やすのみ➡肩骨折

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ヒーーーーッ恐ろしい！！！！

これって速攻救急車の事例もありますよね！処置がさらに遅かったとしたら、母としては本当にゾ～ッとしてしまいます（涙）。

ギフティッド本人に言わせると、ケガの衝撃やショックが激しかったり、今まで経験したことのない病気の苦痛だと、アドレナリンが大放出するせいかなんなのか？なぜか痛みや苦しみの感覚が愚かで鈍くなるらしいのです。これは絶対に普通の感覚ではありません！定型発達のお子様ならば、激しい痛みや苦しみをキチンと訴えることが出来るので、周りの人たちが危機を察知し、事なきを得て直ちに処置されます。でもギフティッドには、大人に対して強烈に痛みや苦しみを訴える様子がないため、大したことないと誤解されてしまいます。

その結果、圧倒的に処置が遅れがちになり、重症化傾向になることが少なくないのです。

だからみなさんをお願いします。保護者はもちろんのこと、医療関係者、教育関係者、駅員、交通事故加害者、そしてギフティッド当事者（←こいつが一番の問題児！）、たいして痛がったり苦しむ様子がなかったとしても、早急に病院へ行き処置して下さい。大袈裟に治療するくらいが、この子たちにはちょうど良いのです。

また、医療関係者が、プロの長年の経験上でたいしたことないと診断したとしても、念のためにプラスして、レントゲン検査、血液検査、尿検査等、その傷病にまつわる検査を、お母さまやその場に居合わせた大人がしっかりと要請して結果を知った上で納得して下さい。

才能開花うんぬんより前に、命のリスク大なのがギフティッドなのだから。 - M.I.

先日、ギフトッドサポートグループミーティングで、建設的なフィードバックの話になりました。皆さん、建設的なフィードバックをもらっていますか。色々な人の答えを聞いていると、意外と内容は、「良い」「がんばろう」など、成績のような評価を頂いているようですが、具体的な建設的なフィードバックは頂いていないようです。フィードバックを簡単に説明すると、この3つに分けることができます。

①ポジティブフィードバック

良かったところ！

②ネガティブフィードバック

ダメだったところ

③建設的なフィードバック

あるイベントに注目を置いている。良かったか悪かったというジャッジはない。何ができるか提案がある。成長してもらいたいという意図がある。タイムリーである。

建設的フィードバックはギフト

ギフトをあげるように、そして、ギフトをもらうように扱う



子供に関して、子育てに関しての建設的なフィードバックをどのように活用するかは、受け取り手次第です。よく、本屋にいくと、フィードバックの出し方の本は沢山ありますが、受け取り方についての本は少ないです。皆さんは自分がフィードバックをもらった時のリアクションをご存知でしょうか。ショックだったり、怒りが込上げてきたり、拒否したりと、受け入れるというところまで辿り着かない場合が多いようです。それは、誰が、どんな立場や経験を持った人が、その建設的なフィードバックを出しているかというのがありますし、信頼関係も、考慮に入ります。現実、学習面や生活面以外での子供に関して、子育てに関しての建設的なフィードバックはあまり頂かないのではないのでしょうか。きっと、差し上げる側は「わざわざ言わなくてもいいんじゃないか」「摩擦が起きるから」と考え直してしまう場合もあると思います。どんな子供にも課題はあります。それは、学習面だけではなく、社交面、感情面、生活面でもそうです。課題は大きな問題になることがあります。一番、子供にとって悲しいのは、その課題がレーダーにひっかからないまま、大人になっていくということです。だから、建設的なフィードバックはギフトなのです。皆さんの周りには子供の成長に関して評価ではなく、建設的なフィードバックをお願いできる人が何人いますか。

そのギフト、どうしますか？

この夏、子供たちは、学校や塾以外でどんな活動をしましたか。そして、皆さんは、どのような建設的なフィードバックを頂きましたか。頂いていないのであれば、是非、お願いしてみたいかがででしょうか。建設的なフィードバックは成長に不可欠ですから！

